

思い出に残る修学旅行

from 豊山小学校

豊山小学校の六年生は、五月三十一日、六月一日の一泊二日で奈良・京都方面へ修学旅行に出かけました。子どもたちは、出発式で元氣よくあいさつをした後、たくさんのお家の方に見送られ、バスにて一路奈良へ向かいま

した。最初の見学地は法隆寺。日曜日の朝早くに訪問したせい、例年になく空いており、五重塔、金堂はもちろん、少し離れた夢殿まで見学することができました。お昼は近くの食堂でカツカレー。大きなカツにボリュームたっぷりのご飯でしたが、さすが食べ盛りの子どもたち、多くの子どもたちが完食

でした。次の平城宮跡の見学では、大極殿や資料館で平城宮の人々の仕事や奈良時代の生活の様子などについて貴重な展示資料や模型を見て理解を深めました。

奈良公園では、東大寺の大仏様の迫力ある大きさに驚き、その後の班別行動では、事前に計画した予定表に従って時間を見ながら行動することができました。その際、鹿せんべいを一人一枚ずつ渡したのですが、鹿はせんべいを見るとどんどん寄ってきてしまい、上手にせんべいを食べさせて、角や体に触れあう子もいれば、近寄ってくる鹿に驚いて、その場でせんべいを落としてしまう子もいました。

奈良公園での見学の後は、宿泊先である聖護院御殿荘へ。御殿荘は史跡旧仮皇居という歴史のあるお宿です。手入の行き届いた庭を見ながらの足湯を楽しんだり、豪華な夕食に舌鼓をうつたり、京都の伝統芸能である舞妓さんの鑑賞をしたりしました。生で舞妓さんの舞を見るのが初めてという子どもたちがほとんどあつてか、皆いっも以上に真剣な眼差しで舞に見入っていました。その後の質問タイムでは、子どもたちから次から次へと質問が飛び出しました。

二日目は朝から銀閣寺、金閣寺と見学し、室町時代の凛とした東山文化、華やかな北山文化に触れました。また、午後から訪れた清水寺では、有名な清水の舞台からの眺めに感動し、その後の班別行動では音羽の滝で清水を飲んだり、参道でお土産を買ったりと楽し

く過ごしました。あつという間の二日間でしたが、奈良・京都の「ホンモノ」に触れることができ、充実した思い出深い修学旅行になりました。この貴重な経験を、これからの学びに生かしていきたいと思っています。



第百八十話

明治の学校生活

明治時代に豊山小学校ができたころに通学された人のお話です。

数え年八歳の時に尋常小学校ができました。それまでの仮校舎からここへ移った時には、ばあばあ教室でもうれしかったものです。翌々年に東側に二教室が新築されて古い教室に継ぎ足され本格的な学校になりました。新教室には一、二年生が入ることになり三、四年生は古い教室に入りました。こうして一つの校舎に尋常小学校が全員収容されることになりました。今の豊山小学校の前身です。

尋常小学校は四年生で卒業でした。十一歳で六ツ師の高等小学校へ進学しましたが、家では兄が尋常小学校しか行っていないので、弟の私が行くのは本当は無理でした。昔は、ほとんどの人が尋常小学校で学校教育は終わり、農業に従事しました。そして、今と違い、家の跡継ぎである長男が上の学校へ行かないと、弟たちはほとんど行けませんでした。

しかし、成績が良かったことから先生から親に頼んでいただき、特別に行かせてもらえることになったのです。

麦田壊しや田植えが続いて田んぼが忙しい時に一月も欠席した時は、勉強が遅れて落ちこぼれそうになりました。ち



よつとの暇や、夜に歯を食いしばって猛勉強して何とか友人に追い付くことができました。

通学の履物は二年生の時までしかん下駄を履いていました。三年生のころは麻裏を履きました。裏側に丈夫な麻緒を三つ編みにしたのがくつつけてあるので、遠路も丈夫でした。大切だったので、白い花緒に名前を書いて友達のと区別していました。ずっと後まで遠足用には麻裏を使っていました。

今は昔の物語です。
(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました)